

**TGベーシック「東北学院大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」
2022年度自己点検・評価結果報告**

東北学院大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門委員会

点検・評価の視点		評価点	取組と評価
学内からの視点			
1	プログラムの履修・修得状況	B	2022年度目標履修者数1,000名に対して、履修者数は970名（修得者数882名）であった。目標達成率97%となり、当該視点において取り組みが概ねできたと評価した。
2	学修成果	A	「授業改善のための学生アンケート」における設問11-1（あなたは、この授業によって得られた成果がありましたか。）については、「大いにあった」「ある程度あった」の回答が「統計的思考の基礎」では合わせて97.6%（アンケート回収率36.0%、以下同じ）、「情報化社会の基礎」では合わせて96.7%（アンケート回収率38.5%、以下同じ）を占め、大多数の学生が学修成果を感じている。同様に、設問11-2（その成果は次のうちどれにあたりますか。）（複数回答）については「知識の獲得・理解」「技術・技能の習得」の回答が「統計的思考の基礎」はそれぞれ86.1%、39.6%、「情報化社会の基礎」で80.8%、34.6%となり成果の内訳の多くを占めている。
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	上記アンケートにおける設問9-1（あなたは、この授業の内容を理解できましたか。）について、「統計的思考の基礎」では「よく理解できた」「ある程度理解できた」が合計で全体の95.0%を、「情報化社会の基礎」では全体の95.7%を占めており、理解をしたと考えている学生が大半を占めるという回答結果だった。
4	学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	A	上記アンケートにおける設問12（あなたは、この授業で学んだことがこれからの人生において何らかの形で役立つと思いますか。）については、「役立つ」「ある程度役立つ」を合わせた回答が「統計的思考の基礎」では98.3%、「情報化社会の基礎」の基礎では99.2%を占め、役に立ったとする学生が大半を占めるという回答結果だった。直接的に他の学生への推奨度を問う設問は設けていないが、これからの人生において役立つとの回答が多いことから、後輩等の他の学生への推奨度は高いことが窺えた。
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	本プログラムの詳細を掲載したwebサイトを用いて、学生への履修を促した。
学外からの視点 <外部評価委員会による評価>			
6	プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	C	本プログラムは2022年度に認定を受けている関係で、評価時点においては本プログラムを修了して卒業した学生はいないため、修了者の進路等の評価はできないが、今後、本プログラム修了者の進路、進路先での活躍状況及び評価を把握するための仕組みの検討を進めていることは理解した。ただし、2021年度の自己評価と同様の状況の記載となっているため、より一層の進展に期待する。
7	学術・自治体・産業界からの視点を含めたプログラム内容・手法等への意見	C	本項目は、外部評価委員会の設置と実施を指しており、2022年度にはその検討が行われ、2023年度には内規の制定と予算措置、外部評価委員候補者の選定、委員会の開催まで行われている。今後は外部評価委員会を含む外部の意見がプログラムの改善へ活用されることを期待する。また、今後の進め方として、企業を含む学外者からのヒアリングを実施し、プログラム内容へのフィードバックを行うような仕組の検討をしてはどうか。

A：当該視点における取組ができた B：当該視点における取組が概ねできた
C：当該視点における取組があまりできなかった D：当該視点における取組がほとんどできなかった